

- ①聴く力・読む力・書く力を高める。(書くを重点的に)
- ②主体的に学習に取り組むことができる児童の育成

学力向上推進員 委員
研修主任

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 学力アップタイムや家庭学習で計算や漢字などを繰り返し練習することで、定着しつつある。	①丁寧に視写することができる。 ②声に出してすらすら音読ができる。	全国調査・ステップアップテストの「言語事項」「数と計算」に関する事項について、平均正答率が70%を上回るようにする。			
課 題 文章を書く力が弱い。	①学力アップタイムでは、課題に集中して取り組ませる。 ②宿題での反復練習、音読カードやミニテストでの確認を継続的に行う。	①隔週で漢字と計算練習を10分間行う。月曜日は視写をする。 ②学習の進度に合わせて、その都度実施する。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ ハンドサインを活用して発表することができる。 学習の内容がわかると頑張ることができる。	①人の話を考えながら、最後まで聴くことができる。 ②自分の考えをもち、筋道を立てて書いたり話したりすることができる。	「自分の考えや意見を伝える力がついている」と答える児童の割合を80%以上にする。			
課 題 自分の考えを筋道を立てて的確に表現する力が不足している。	①ペアやグループ学習を取り入れ、絵や図、文章などを用いて考えを説明する活動を行う。 ②授業の導入後、課題解決していくための見通しを立てる時間をとる。	①1日に1度は、ペアやグループ学習を行い自分の考えを筋道を立てて発表する機会をつくる。 ②研究授業を一人1回行う。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 運動や体験活動など興味関心をもった活動に進んで参加し、努力を惜みず取り組むことができる。 読書週間が定着しつつある。	①自ら調べ解決する学習過程を身につけ丁寧に、粘り強く課題に取り組むことができる。 ②望ましい生活習慣を身につけ気持ちよく学習に臨むことができる。	課題を意識して学習に取り組んでいると答える児童の割合を80%以上にする。			
課 題 自分から課題や問題点を見つけたり、考えたりする意識が少なく、指示待ちになることが多い。 健康的な生活習慣づくりが必要である。 (早寝・早起き・朝ごはん・歩育)	①授業でめあてを提示し、課題を意識させるようにする。 ②保護者と連携しながら生活や学習習慣づくりを行う。	①毎回、ノートにめあてを書かせる。授業の振り返りを1行以上書かせる。		評価	次年度における改善事項

平成29年度 学力向上ロードマップ

